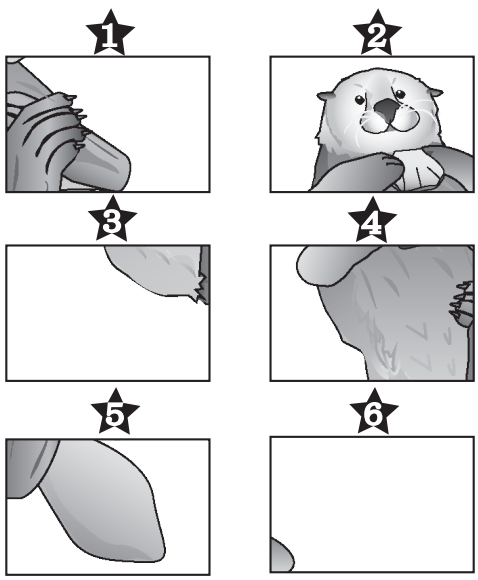
絵の合成・分解 ②

◆◆◆どうして絵の合成分解をするの？◆◆◆

ＰＹＧＬＩ能力育成問題集の『絵の合成・分解①』や『絵の合成・分解②』のところでも説明しましたように、小学校になって、算数でくりあがり、くりさがりの加減計算ができない子どもは、この問題をまちがいます。構成把握能力や合成分解能力が前提となって、数論理能力が創られているからです。
（詳しい説明は、能力育成問題集の『絵の合成・分解①』などの指導上のポイントを参考にしてください。）

◆◆◆指導上のポイント◆◆◆

この問題集には、領域別問題集６の『絵の合成・分解①』と同じく、４分割されてバラバラに置かれた絵を、元の位置にもどす問題と、６分割されてバラバラに置かれた絵を、元の位置にもどす問題が入っています。
ここでは、６分割の問題の解答方法について説明いたします。
下の問題に関して言えば、今までと同様に、まず全体を見て、ラッコの頭が、左上や右上、左下や右下などのどこにくるかを考えます。そして、仮に頭の位置を左上のところと考えて、空白の欄の左上に２を書き込みます。次には、左中のところに４、右下に５と書き込み、全体の位置を確認しながら左下に３、右中に１と書き込みます。最後に６を右上に書き込んで、それらが並んだら、１つの絵が完成している状態を、頭に思い浮かべてみます。答えがわからない場合は、答えを教えるのではなく、実際に、この絵をコピーしてからパーツごとに切ります。パズルのように組み合わせて、正確な絵を見せてから、もう一度問題を試みましょう。



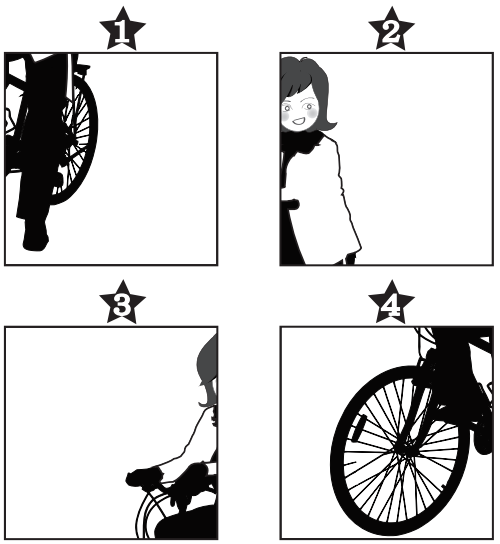
2	6
4	1
3	5

絵の合成・分解 ②

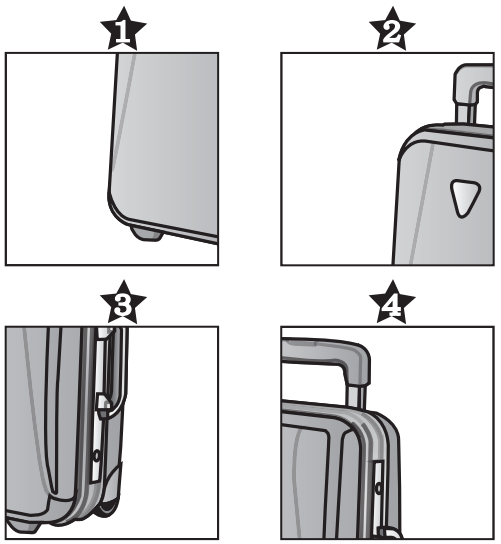
（時間：1ページ1分程度）

元の絵に戻すには、どのように入れ替えればよいでしょう。
下の枠の中に番号で答えましょう。

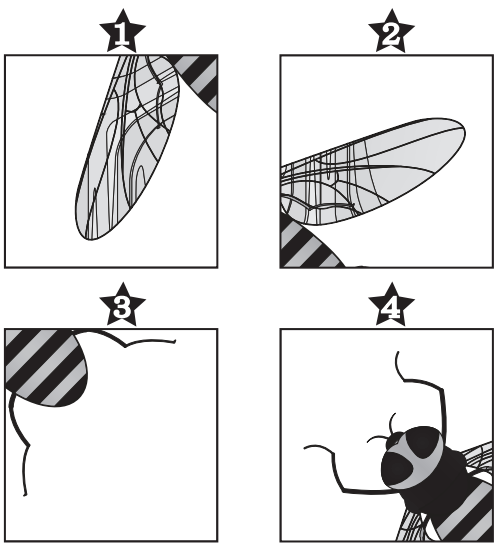
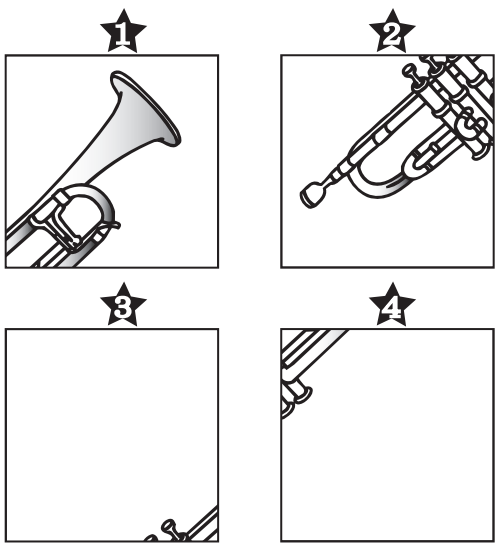
問題1



問題2



問題3



問題4